

令和3年度 長野県立歴史館協議会 議事録

1 日 時 令和3年6月30日（水）13時30分から15時30分まで

2 場 所 長野県立歴史館 会議室

3 出席者

○委員（五十音順） 植田平委員 倉石あつ子委員 小松芳郎委員 佐藤真耶委員
中澤英治委員 矢島宏雄委員 若林由美子委員
（欠席 浮貝貴子委員 久留島浩委員 中村孝子委員）

○県立歴史館 笹本特別館長、渡島館長、中野学芸部長、小野総合情報課長、町田考古資料課長、村石文献史料課長

○県教育委員会 文化財・生涯学習課 久保課長、三木担当係長

4 会議に付した事項

- (1) 令和2年度事業（実施状況等）について
- (2) 令和3年度事業（活動計画等）について

5 会議内容

[渡島館長]

ただ今から、令和3年度長野県立歴史館協議会を開催いたします。私は館長の渡島と申しますが、冒頭は私が進行してまいります。

会議に先立ちまして、笹本特別館長からご挨拶を申し上げます。

[笹本特別館長]

委員の皆様には本日は、お忙しい中、お集り頂きましてありがとうございます。私どもの歴史館も26年目で、いろいろな課題が出てまいりました。この歴史館協議会でのご意見を受けて、私どもも少しでも前に進んでいければと考えています。

本日の協議会は、昨年度の事業の成果を私どもで評価いたしましたけれども、委員の皆様がどのようにお考えになるか、それから令和3年度の事業についてはいかがかということ論議していただければと思っています。私ども最終的には館のためというよりも県民の文化がいかに向かしていくか、県民にとってこの館が本当に必要になっていくのか、そういうことを考えながら進めてまいりたいと思っています。委員の皆様こそが私たちにとっての羅針盤でありますので、皆様のご意見を私たちがどのくらい実行できるかが大事だと思っていますので、今日は忌憚のないご意見をいただきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

[渡島館長]

この2月に委員の改選があり、皆様には2月7日から令和5年2月6日までの2年間、委員をお務めいただきますようよろしくお願いいたします。

委員のご紹介はお手元に配付した委員名簿を持って代えさせていただきますのでご了承ください。

本日会議に出席している当館職員と県教育委員会文化財・生涯学習課の職員につきまして、氏名等はお手元の名簿及び配席図のとおりです。よろしくお願いいたします。

ここで、会議の成立について報告いたします。お手元の委員名簿のとおり、委員総数は10名です。本日はそのうち7名のご出席をいただいておりますので、長野県立歴史館管理規則の規定により会議が成立していることをご報告いたします。なお、本日都合により欠席された委員は3人いらっしゃいますが、事前に書面によりご意見をいただいておりますので、その内容につきましては議事の中でご説明いたします。

本日の会議は、新しい任期の最初の会議となりますので、議事に入る前に、当協議会運営細則の規定により会長、副会長を選出していただきたいと思います。細則では、委員の互選によると規定されていますが、いかがでしょうか。

[中澤委員]

事務局の案があったら、提案していただきたいと思います。

[中野学芸部長]

事務局としては、会長に小松委員、副会長に倉石委員をと思っています。

[渡島館長]

ただ今、事務局案について、いかがでしょうか。

(委員全員の拍手により了承)

有難うございました。それでは、会長を小松委員に、副会長を倉石委員にお願いいたします。では、以後の進行は小松会長にお願いいたします。

[小松会長]

ただ今、会長に選出されました小松です。いろいろ皆さんと考えていきたいと思っておりますので、よろしくお願ひいたします。それでは、次第に従って会議を進めてまいります。はじめに議事(1)の令和2年度事業(実施状況等)についてですが、歴史館で自己評価しておりますので、これを審議してまいりたいと思ひます。事務局から説明をお願いします。

[中野学芸部長]

(配付資料「令和2年度事業(実施状況等)について」説明)

[小松会長]

説明をいただきまして、これから質疑に入りますが、その前に欠席されている委員の方々から書面で意見をいただいているようですので、この説明もお願いしたいと思います。

[渡島館長]

(欠席委員から書面提出された意見について説明)

[中野学芸部長] (時代別研究会について補足説明)

時代別研究会は当館職員が課の枠を越えて原始時代、古代・中世、近世、近現代という4つの時代に分かれて、月1回くらい研究会を行っています。職員が研究会の中で研究成果を発表して意見を交わすという活動を行っています。また、ブックレットを作成したときには研究会で原稿を読み、修正するという事もしています。

[村石文献史料課長] (未整理現代資料の整理について補足説明)

収集の対象となるものは、県職員が作成する行政文書、県の刊行物などの行政資料、それから現代資料という項目があります。平成4年に長野県史の編纂が終わりましたが、現代編ができていないという中で、今後、現代編を作っていくに当たって、現代史についての資料を収集していこうということで歴史館が発足しております。しかし、人員体制の問題もありまして、収集しても整理が進まないという状況が続いてまいりましたが、去年は未整理のもの27件を開示できたということです。ただ、未着手のものも8件ありまして、そういう課題もあるということでB評価としました。

[小野総合情報課長] (歴史館ホームページのアクセスの減少について補足説明)

令和元年度は開館25周年で国宝土偶展を開催したことでホームページのアクセスも非常に多かったこと、また、令和2年度は新型コロナウイルスの蔓延による休館もあったということもあり、こうしたことがホームページのアクセス数が減った要因と考えています。

[小野総合情報課長] (利用者アンケートの内容について補足説明)

昨年度は新型コロナ予防のために接触を避けるという意味でアンケートをとらなかった期間があります。年度後半にはアンケートを再開しまして、満足度は概ね90%前後という評価をいただいています。こうしたことを総合的に判断してB評価としています。

[小野総合情報課長] (令和4年度企画展の調査・研究内容について補足説明)

令和4年度企画展として高遠展・諏訪展を予定しており、昨年から調査を進めています。高遠展は幕末、維新期の高遠藩が地域に残した資料で、信仰に関わる資料や人に関する資料などを軸に基本設計を進めています。諏訪展については戦国時代から近世にかけて、武田の支配を受けた諏訪がどのようなようになっていったかということを中心に調査しています。

[小野総合情報課長] (歴史的水害を伝える史料の活用研究会について補足説明)

この研究会は日本土木学会員でもある山浦名誉学芸員が中心となって活動しており、当館からは私、小野が参加していますが、8年ほど前から歴史館蔵の河川図などの資料の撮影を行い、昨年度は長測図の撮影を1か月ほどかけて行いました。その後は池田町で歴史館資料の展示や講演会、中学校の体験学習の支援などを研究会として実施しています。歴史館としての研究会への協力という意味では図面の撮影協力が中心でしたので、当初目標どおり達成(B評価)としています。

[小松会長]

その他補足事項はよろしいですか。では、欠席の委員のご意見も含めて進めていきたいと思えます。ページごと、大きな項目ごとに皆さんのご意見、ご質問等を出していただきたいと思えます。1ページ目についてご意見、ご質問をお願いします。

[植田委員]

資料中の見出しで「利用者評価(アンケートで寄せられた意見)」の部分が斜め文字になっているのに、本文では利用者アンケートの内容も備考も同じフォントなので、しっかりと区別していただくと審議しやすいと思えました。

もう一点、「未来を映す歴史知識の泉としての役割を果たします」の「企画展示の充実」の部分で、「○企画展示の充実」とあり、下に「○ミニ展示の開催」とあって項目が別れていますが、達成値は企画展示とミニ展示が一緒になっているのではないかと思いますので、

来年度以降そうした部分も分かりやすく表記していただけるよいと思いました。

[矢島委員]

「防災・災害の対応」で事例研究や他県の体制・対応を参考に研究し、問い合わせにも100%応じたということですが、具体的にはどのようなことをされたのでしょうか。

[村石文献史料課長]

一昨年の千曲川の水害で、文化財の被災についての問題意識が高まったということもあるかと思うのですが、昨年度は千曲市教育委員会で市内の文化財の所在調査を行い始めたということがあり、その研修会で歴史館職員が出向いて文化財の所在調査の意義などをお話しした例があります。

[小松会長]

「県、市町村等への公文書等の保存・活用について支援」で、県内市町村からの問い合わせに応じたとありますが、どんな問い合わせに、どのように応じられたのでしょうか。

[村石文献史料課長]

木祖村から村史の編纂をしたときの資料について、収蔵スペースがないということで今後どうしたらよいかというご相談を受けました。先ほどの千曲市の事例（文化財の所在調査）も相談対応のひとつです。その他、当館が事務局になっている資料保存活用連絡協議会でも、その会員から公文書の選別について将来的に講習を開いていただきたいとか、マニュアルがないので何か参考になるものはないかという相談がありました。

[小松会長]

県内の市町村で文書館のような収蔵スペースがない自治体は、地域資料の保存に困っていると思うんですね。すぐに歴史館に預かってほしいということではないですが、そういう課題を共有して考えていかなければならないと思っています。私がお世話になっている松本市もそういう問題がありまして、所蔵者から歴史館で受け入れていただけなかった資料をどうしたらよいかと相談を受けたことがあります。そういうことを課題として歴史館だけでなく自治体としても考えていかないといけないと思いました。

[笹本特別館長]

大変重要なご指摘をいただきまして、ありがとうございます。私どもとしては、資料は現地保存が原則で、できたら現地で保存していただきたいけれども、それが叶わないのであれば、できるだけ県の施設である当館で預かるという方向にもっていきたいと思うのですが、当館の収蔵庫もほとんど満杯です。さらに公文書館の問題もあります。今日は文化財・生涯学習課長も来ていますので、協議会からも指摘があったということも含めて現状認識し、事実を共有した上で対応を考えていきたいと思っています。

[小松会長]

自分たちの自治体、地域の問題ということにもなっていると思います。他には1ページ目はどうですか。

[倉石委員]

文化財レスキューの問題ですが、マニュアル（ガイドライン）を策定されましたよね。それを各博物館や文書館でどのくらい徹底されているのか、活用が可能なものになっているのかというところを伺えればと思います。

[村石文献史料課長]

昨年、私が策定の委員のひとりとして加わっていたので、分かる範囲でのお答えとなりますが、マニュアル（ガイドライン）は3月に策定されたところで、今後どういう形で各市町村が共有していくかということは検討課題です。来月末に県教委を中心にメンバーが集まって検討する会合がありますので、こうしたことも話題になってくると思います。

[笹本特別館長]

具体的な状況について説明があったとおりですが、最初に千曲市の松田館の火災があったことで話し合いをしまして、今回マニュアル（ガイドライン）がまとまりました。ただし、これは非常に大きな網でして、個別具体的な網は次々とかけていかなければならないのではないかと、この点は更に研究をする必要があります。また、大きな災害があったときに圏域ごとに協力していかないといけないのですが、例えば千曲市で災害があれば北信や東信も被災しているだろうから、中南信から助けに来ないといけないということが起こってまいります。そのような協定は県でつくっていますが、その中には文化財という項目が入っておらず、「その他」のままになっています。ここに文化財ということが入っていれば、各市町村もそれを名目にして現地に行くことができますので、そのようなやり方については今後、県のほうで進めていただけたらと思っています。

それから、先ごろWEB会議で公文書館長会議に出たのですが、広域圏の中で、例えば中部圏の中で、あるいは全国的な規模の中でどのようにやるのかということが審議されています。ですから、長野県の場合も中部圏や関東圏、北信越の中で広い視野で検討していただけるように、今日は文化財・生涯学習課長も来ていますので、課題として私たちも認識していきたいと考えています。

[植田委員]

先ほど小松先生から収蔵スペースの話が出ましたが、資料をみると旧須坂商業高校を収蔵庫としているようですので、高校の統廃合で県有の庁舎が空いてくる可能性もあるので、そういうところともうまく連携をとっていただければと希望します。

[小松会長]

1ページ目について協議会としての評価をしたいと思いますが、歴史館の自己評価のままでもよろしいですね。では2ページ目についてご意見、ご質問ありますか。

[笹本特別館長]

私どもとしては、自己評価をあまり甘くしたくないという思いで、部課長会で話し合ったときに、ひとつでも問題のある項目があれば評価を落として（辛くして）います。

[倉石委員]

拝見していて、そんな感じがいたしました。かなり自分に厳しく評価していらっしゃるよう感じます。久留島先生が評価を変えていらっしゃるほうがちょっと甘めで、どちらかというとも、コロナ禍でこれだけのことをやっているんだから、BをAに評価を変えている

ところはそのとおりでいいのではないかと思います。

[植田委員]

私も久留島先生、倉石先生と同じく思っております、久留島先生がC評価のところを「評価不能」とすべきだとされているのは、こういうことも必要なことではないかと。県の基準でこうしないといけないのかもしれませんが、こういう（コロナ禍の）事態ですので、C評価というのは厳しいなと思っております。

[小松会長]

その点、C評価を「評価不能」とする久留島委員と植田委員のご意見もありますが、県とすれば何としてもA、B、Cでということでしょうか。

[笹本特別館長]

私どもとしては、目標を掲げた以上、目標に達していないのであればCという評価をしたということです。皆様が評価不能だから評価する必要がないということであれば、皆様にお任せします。

[倉石委員]

もし、「評価不能」という表現でいいとすれば、2ページ目の一番下のC評価は「評価不能」とするほうが、（コロナ禍の）今年度に限ってはいいと思います。

[小松会長]

新型コロナウイルスの対応のために休館を余儀なくされたりした中での達成値に対する評価ですので、そういう意味では昨年度は特別で、こういう非常事態の中での特別の評価ということで、Cではなくて「評価不能」とするということですね。ご意見どうですか。

（賛成の声）

よろしいですか。では2ページ目のCについては「評価不能」とします。

その他2ページ目についていかがでしょうか。中村委員からは学校教育支援の評価について、久留島委員は未整理現代史料の整理についてB評価をAでよいではないかという意見がつけられておりますが、いかがでしょうか。

[植田委員]

久留島先生も書かれているように、現代史料の整理についてはBではなくAに。と言うのは、目標値に何件やるとは書いていなくて、これをBにしてしまうと、今後もずっとB続きになってしまうかもしれないし、むしろ何件、何%やるという数値目標を入れなかったことが課題かなと思ってしまうので、私は達成値の評価としてはAのほうがよいのではないかと思います。

[小松会長]

未整理現代史料の整理については、協議会としてはAとすることによろしいですか。その他2ページ目の評価についてどうですか。

[若林委員]

市の教育委員会の立場から、「学校教育を支援します」の項目で、見学の学校が重なった

ときはお断りしたということであつたり、教員研修もコロナ禍で3回が1回になったりしたということですが、昨年度は本当に特別であつて、果敢に取り組んだ上での結果だとしたら、これもAでよろしいのではないかと思います。

[小松会長]

中村委員からもその点、A評価でよいということでご意見をいただいている、若林委員からもそういうご意見がありましたけれども、新型コロナ禍であっても工夫して実施されている訳ですよ。 「博物館実習・職場体験学習の受入」と「教員研修への協力、実施」のB評価はAでよくないかということで、そういう評価とします。

では、3ページ目に行きます。「古文書愛好会の育成と活動支援」がすべて中止ということでC評価となっていますが、先ほどのご意見のように昨年度は緊急事態ということで「評価不能」ということでよろしいですね。その他3ページ目についてお願いします。

[中澤委員]

評価についてではなく、ありがたかったなという点でお話をさせていただきます。私は隣の森將軍塚古墳館の館長ですが、昨年度、千曲市と連携協定を結んでいただいたことで、これまでは同じ公園内にありながら少し遠い存在であった歴史館さんとお近づきになれたと思っています。と言うのも、お声を掛けていただいて、2館のセット観覧券をつくることができました。4月から始めたんですが、かなりの利用がありますし、また、情報交換をする機会も増えまして、大変ありがたく思っています。（「県内外諸機関との連携」については）A評価になっていますが、更に上の評価でもいいと思っております。

[小松会長]

自治体とは初めての連携協定ということですよ。大変高い評価をとということです。

その他いかがですか。久留島委員からは「人が交流でき、憩える場とします」の項目で、来館者とボランティアの交流のところで、コロナ禍で最も難しいはずの人的交流の機会を少しでも設定したことは評価すべきだということでA評価にというご意見ですが、その点はいかがでしょう。

（「A評価を」の声）

では、解説ボランティアについて、活動が十分できなかった中で参加されているということで、協議会としてはA評価ということでお願いします。

それから、出前講座についても久留島委員から、人数制限が余儀なくされている中でほぼ上限の人数参加があつたのでA評価でよくないかというご意見ですが、いかがでしょう。

（「同感」の声）

よろしいですか。ではこれも協議会としてはA評価ということでお願いしたいと思いません。

その他、いかがでしょう。

[植田委員]

おでかけ歴史館も相当がんばっていただいていると感じておりますので、私も久留島先生と同じくA評価かと。

[小松会長]

おでかけ歴史館も出前講座と同じく、A評価にというご意見ですが。

[植田委員]

久留島先生も書いているように、回数が目標に達していないということは（マイナス材料として）あるかもしれませんが。

[矢島委員]

コロナ禍でがんばっていただいたことは、みんなAでいいんじゃないでしょうか。

[小松会長]

おでかけ歴史館事業もコロナ禍の中で、しかも休館も余儀なくされた中でこれだけの事業をされているということで、協議会としては出前講座もおでかけ歴史館もA評価とさせていただきます。その他についていかがですか。

[矢島委員]

全体について、歴史館の皆様ががんばっていただいているのが分かりますが、お金の面や人の面、先ほども出た収蔵庫についての問題がある中で、この評価表を知事が見たら、「この予算でよくやってるね、マル！」で終わっちゃうような気がするんですね。この評価表の書式はこれでいいんですが、お金や人、設備の面での制約がある中で職員の努力があったり、無理なところもあったりするということを明らかにしないと、今後が続いていかないのではないかと思いますので、ぜひそういう問題があることを協議会としての意見としてまとめていかれるような、そんなことをお願いしたいと思います。

[小松会長]

協議会としてこのA、B、Cの評価をしたこととは別に、人の問題、収蔵庫の問題、予算の問題などがあるということが、協議会での意見として出たということ（記録に残すよう）をお願いしたいと思います。

[矢島委員]

歴史館側から、こういう問題があるということ（を）明らかにしていけないと、私らとしたらコロナ禍でこんなにがんばっていただいと拍手を送るだけで終わってしまいますので。

[笹本特別館長]

大変心強い意見をいただきまして、ありがとうございます。例えば私どもの企画展は精々1回3百万円、よそだと大きな展示だと1回3千万円というように、桁が違う。10分の1の予算でこれだけの仕事をしているというのは、私にとっては誇りであると同時に、このままで行ったら動きがとれなくなるのではないかと。収蔵庫の問題も非常に大きくて、私どもは長野県民の蔵でありたい、必要なものはきちんと扱って次の時代に伝えていく、あるいは打ち捨てられているものであっても大事なものはきちんと預かるというのが私たちの使命だと思っています。ところが既に収蔵庫が満杯になってきている中、どうするのかという問題がございます。

それから職員数も開館当初からみると減ってきていますが、仕事自体は増えてきています。職員が足りない中で、これ以上のことはできないのも事実です。その意味では事業そのものを削減していかざるを得ないとも思っています。ただ、昨年度の予算に関してはありがたいことに、国宝の金印を展示する予定だったこともあって増額していただいたということ

もあります。ただし、通常の企画展では大きな予算ではないのが現状です。

また、予算がない中で進んでいないことも多くあります。本館にはフィルム収蔵庫がありますが、26年目ともなると空調設備の改修が必要になっています。よろしければ後ほど入っていただけるといいんですが、（フィルムの劣化で）大変な臭いがしたりします。皆さんからも、この辺はどうなっているんだとか、この辺をもっとよくすると歴史館ももっと前に行けるぞというようなご意見をいただけることはありがたく思います。

[小松会長]

協議会として評価を一部修正していますが、それに併せて、ただいまのような意見があったということ記録に留めて報告していただきたいと思います。もし必要でしたら、そういう文章を協議会として記録としておくことも可能だと思いますが、その辺りは今決めるということではありませんが、事務局で対応していただきたいと思います。

では、次の議題に移りたいと思いますが、（2）令和3年度事業（活動計画等）について、事務局から説明をお願いします。

[中野学芸部長]

（配付資料「令和2年度事業（実施状況等）について」説明）

[中野学芸部長]（ビーコン（可視光ID多言語コンテンツガイドシステム）について補足説明）

昨年度の目標にはビーコン（可視光ID多言語コンテンツガイドシステム）というものがありました。これはタブレットを持った人がビーコン（発信機）からの信号を受け取って多言語（外国語）で説明を聞くことができるシステムを信州大学工学部が研究として始め、その実証実験を本館の展示室をさせてほしいということで進めていました。本来なら昨年の段階でタブレットをお客様に貸し出して実証実験をやろうとしたところでコロナ禍となり、タブレットを貸し出すことができなくなってしまいました。今年度になって事業は一旦区切りとなりました。今の段階では、これまでの実験結果をもとに論文にするということですが、その先の動きははっきりしませんので、この事業は今年度の目標からは外しました。

[小松会長]

この件を目標から落とした理由は分かりましたが、久留島委員からのご意見では、逆にこのような時だからこそ充実させるべきというお考えもある訳ですが。

[中野学芸部長]

国の研究費がついても、大学と歴史館だけでなく、企業が入って商品化が進むことが必要なんです、その企業が見つからなかったようです。そのようないろいろな事情があるようで、事業は一旦区切る形となったということです。

[小松会長]

それでは、令和3年度の事業の事業についてご意見、ご質問がありましたらお願いしたいと思います。

[植田委員]

表面の一番上の行政文書や古文書のところで、先ほどフィルム収蔵庫のお話しもありまし

たが、フィルムはスチール写真のフィルムだけでなく、VHSテープとかCD、フロッピーディスクなど、技術の問題で今後再生できなくなるものがある。長野県は民俗芸能の宝庫で、かつての8ミリフィルムとかVHSも相当あるのではないかと想像するのですが、そういった点の課題についてご教示いただければと思います。

[笹本特別館長]

私どもとしてはデジタル化をできるだけスムーズに進めてまいりたいと思っています。ところがこれはすごくお金のかかることで、予算の制約もあって中々進んでいかないのが現状です。さらに、行政文書庫には橋など土木施設の設計図が多くありますが、近代以降のものは酸性紙でできていて、一度開いたらバラバラになってしまう可能性があります。このように、デジタル化を前提に開かないといけないというものも沢山ございます。現状としては予算が十分でないけれども限られた予算の中で進めています。地図などのデジタル化については先ほども話のあった山浦名誉学芸員と一緒にやっているように、よそのところと連動して相手先から費用を出していただいたりしてデジタル化を進めています。植田委員からのご指摘も認識した上で少しずつでも予算計上して進めてまいりたいと思っています。

[小松会長]

よろしいですか。では、その他ご意見、ご質問ありますか。

[倉石委員]

事業計画概要の中の「学校教育等への支援」として出前授業を計画されていて、小・中・高校が対象となっていますが、大学の初年次教育に組み込んでいくようなことは考えられないでしょうか。と言うのは、良い学芸員を育てるためには大学の最初の頃の教育がかなり重要じゃないかと私は思っていますので、大学の1年生くらいはやってもらえると思うんですが、どうでしょうか。

[笹本特別館長]

できるだけやりたいと思うんですが、本館の職員数が限られています。多い時は4校ぐらい学校見学が入っていますが、それをグループに分けて館内の説明をしていますので、この間は誰も外に出られない。そうすると、よそに教えに行きたくても人的資源の問題でできないということです。今までは大学という意識は恥ずかしながら全くありませんでしたが、本館の職員の中にも大学で教えている者もいます。私にとって宝物は学芸員なので、質の高い学芸員がいることこそが誇りであります。ところが本務の人数が限られていると外には中々行ってられないということもありますので、全体を勘案しながら少しでも倉石委員がおっしゃったような方向に考えていきたいと思っています。

[倉石委員]

よろしくお願いします。

[小松会長]

事業計画概要の2(2)史資料の収集・整理・保存ですが、地域史料が県外にどんどん流出して古書店などで大変な高額で売られているんですね。こういうものも含めて収集となると大変なお金がかかってくるんですが、その辺りの予算措置はいかがでしょうか。地域史料が一旦流出すると買い取らないと調査もできないわけですね。そういうことの防止策、対応

策についてお伺いしたいと思います。

[村石文献史料課長]

歴史館に近世史料の流出文書を取集する予算がついております。県内外の古書店から目録が送られてきますので、そちらを文献史料課で整理して県内関係の文書をリスト化して、関係する市町村にお送りしています。基本は現地の市町村がお持ちになるのが一番ですけれども、（市町村の）予算の問題もあるので、それができなければ歴史館の予算で収集していくというように、流出のセーフティネットのような形で取り組んでいるんですが、何分にも予算は限られていて、そこは課題ですけれども、今後もこのような形で進めていきたいと思っています。

[小松会長]

予算も措置していただいて、できるだけ対応していただきたいと思っています。

[笹本特別館長]

今確認したんですが、（地方文書の購入に）年間使えるのは120万円です。数年前に川中島合戦の感状を購入しましたが、その頃から今の額とは別に（歴史資料購入費として）300万円の予算がついて、その範囲で足利尊氏の文書だとか、下條氏の文書だとか、いろいろなものを購入しています。地域史料の保全のために120万円の予算というのは、現代史の重要なものでも1点20～30万円する場合がありますから、これでは大きなものは購入できないことも事実です。例えば、昼休みは電気を消したりして電気料の余剰を少しでも史料購入に回しているというのが現状です。ですから、協議会として資料購入費を上積みしてほしいというようなことを意見として言っていただけるのはありがたいと思っています。

[小松会長]

地元に残すには外へ出る前に。そのためには歴史館だけでなく、それぞれの自治体や県民の協力、情報提供が必要だと思うんですよ。そういう呼びかけをするとともに、歴史館である程度の予算措置も必要になってくる。本当に沢山（地方文書が）出てまして、本当に必要だと思うものは高いんですよ。そうなる前に確保したいと思うんですが、歴史館にとどまらず、県民挙げて、自治体挙げて対応をすべきであって、そのためには情報交換も必要です。これも協議会としての意見ということでお願いします。

その他、全体にわたっていかがでしょうか。

[佐藤委員]

予算が少なかったりコロナの問題があったりする中、創意工夫していただいて活動されているということがよく分かりました。人員の問題についても確保するには人件費がかかって予算の確保が必要になってくると思いますので、そういうことも考えながら進めていただけるとよいのではないかと思います。

[植田委員]

県の施設であるので定性的、定量的な指標となっていますが、文化や社会教育は定性的、定量的には測り切れないものだと思うので、何か総括的なページ、例えば課題であったり、コロナの中で工夫したことなど、年報や来年の報告などではそういうところもご検討いただければと思います。

[笹本特別館長]

大変大事なことだと思います。私は（来館）人数が何人というよりも、何人が感動して帰ってくれたかというほうが大事で、その指標のひとつは図録の販売だと思っています。このところ図録は企画展期間中にほぼ完売するくらいで、これは評価すべきだと思います。また、何人かの人から、以前と比べて図録が良くなっているという声が聞かれるようになってきていますので、植田委員が言われたことに対応できるように、そういうことを入れていくようなこともしたいと思います。

それから、この部屋（会議室）はインターネット環境がよくありません。講堂もネット環境が悪い。昨年、KOA株式会社との企業連携の事業で、インターネットを使って南箕輪小学校の授業をしたんですが、向こうから機材を持ってきてもらってやりました。本館は教育施設ですので、ネット環境を良くして、よそとも常に連絡がとりあえるようにすべきだと思いますが、そのための予算は今のところ用意できないのが現状です。例えば講演などはインターネットでつないで外部発信していかないといけないと思うんですが、そういう不十分な点があることを委員の皆様からもご指摘をいただくとありがたいと思います。

[小松会長]

それでは、全体的によろしいでしょうか。先ほどからのお話のように、各委員からいろいろご意見や要望をいただきましたけれども、協議会として記録に残していただくようお願いいたします。

議事はこれで終わりにいたしますが、文化財・生涯学習課の久保課長さんもお見えですので、何か一言お願いします。

[久保 文化財・生涯学習課長]

委員の皆様から非常に活発なご意見をいただき、ありがとうございました。いただいたご意見をしっかり受け止めまして、今後の歴史館運営に活かしてまいります。予算や人的な部分のご指摘がございましたが、ご承知のとおり、歴史館はいわゆる教育研究機関でありまして、例えばテーマパークのように収入をもって経営を均衡させるというような施設ではございません。最終的には県民の皆様あるいは国民の皆様が納めていただいた税金を財源にしている中で、政策の優先順位ということを考えると、例えば新型コロナ対策、あるいは防災対策とこういう（歴史館の）事業と、どれを優先するんだという議論になりがちです。けれども、短期的ではなく長い目を見て、長野県民にとって歴史というものをどう捉えたらいいのかということ、特に一般の県民の皆様をしっかりご説明しなければいけないと思います。特別館長以下、歴史館の職員に取り組んでいただいていることを教育委員会としてもしっかり発信していけるように努めてまいりたいと考えていますので、ぜひ、委員の皆様方におかれましても、歴史館の課題や現状について、機会があれば発信していただければと思います。本日はありがとうございました。

[小松会長]

それでは以上をもちまして協議を終了し、議長を退任します。ご協力ありがとうございました。